

連載

アセアンの 新たなステージ ～VIP

第2回

若い人口構成を強みに
成長するVIP

堅調な成長を実現してきたアセアンは、発展段階の異なる多様な国々で構成されている。世界銀行の1人当たり国民総所得（GNI）に基づく分類によれば、1,135米ドルまでが「低所得国」、4,465米ドルまでが「下位中所得国」、1万3,845米ドルまでが「上位中所得国」、それより多い国が「高所得国」と位置付けられている。VIP（ベトナム、インドネシア、フィリピン）3カ国の1人当たりGNI（2022年）を見ると、インドネシアが4,580米ドルと「上位中所得国」の水準へ入ったばかりで、ベトナムが4,010米ドル、フィリピンが3,950米ドルとそれぞれ「下位中所得国」に分類され、「上位中所得国」入りをうかがう状況となっている。なお、シンガポールの1人当たりGNIは日本の約1.6倍に当たる6万7,200米ドルに達している。他国に先んじて発展を遂げたシンガポールは、アセアン自由貿易地域（AFTA）を推進し、アセアン経済共同体（AEC）を提案するなど経済統合の深化に貢献し、自らも成長を持続できたことを評価されている。

より身近な賃金水準を見ると、日本貿易振興機構（JETRO）がまとめた23年度の「海外進出日系企業実態調査」アジア・オセアニア編によれば、製造業・作業員の月額基本給は、中国が576米ドルであるのに対し、ベトナムが273米ドル、インドネシアが377米ドル、フィリピンが271米ドルとなお割安な水準にある。VIP3カ国でも賃金上昇はあるものの、アセアンシフトの流れの中で、直接投資先として外国企業の注目を集めており、外国投資の流入が継続することが見込まれる。また、投資先として有望視される理由として、現地マーケットの今後の成長性を挙げる向きも増えている。VIP3カ国の1人当たりGDPは3,000～5,000米ドルの水準にあるが、一般に1人当たり国内総生産（GDP）が3,000米ドルを超えると、家電など耐久消費財需要の伸びが加速し、5,000米ドルを超えると、自動車などの普及が進むとされる。ま

さにVIP3カ国は、国内消費市場の一段の成長が期待される局面にあると見られる。

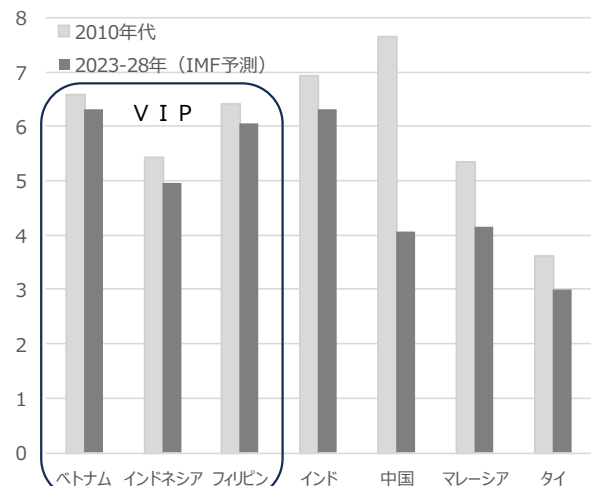
また、VIP3カ国は人口動態面からも今後の成長性に期待が持てる。国連の人口推計（最も実現性が高いとする中位推計）によれば、3カ国合計の人口は21年の約4.9億人から40年には約5.6億人へと、年率0.8%のペースで増加しつつ、若い人口構成が維持される見通しである。生産年齢人口（15～64歳）比率は、ベトナムやインドネシアで65%を超える水準を維持すると見られる。また、フィリピンの生産年齢人口比率も長期的に上昇を続け、20年代末に65%を超えてくると予想されている。生産年齢人口は働き手であると同時に、活発な消費者であり、この層が厚みを増すことで個人消費が中長期的に拡大し、経済を支えることが見込まれる。また、人口は都市部で大きく増加する見通しで、都市化に伴う道路や電力などのインフラに加え、住宅に対する需要も拡大しよう。

このようにVIP3カ国は、外国直接投資の流入が続くことが予想されるほか、国内消費やインフラ投資の拡大などが成長ドライバーとなり、高成長を続けると見込まれる。国際通貨基金（IMF）によれば、23～28年の実質GDP成長率は、ベトナムが年平均6.3%、インドネシアが同5.0%、フィリピンが同6.0%と予想されている。これらは、インド（同6.3%）と遜色ない水準であり、10年代から大幅な減速が予測されている中国（同4.1%）、アセアン加盟国であるマレーシア（同4.2%）やタイ（同3.0%）を上回る高成長予想となっている。次回以降は、VIP個別国について解説していく。

（執筆：岡 栄一／キャピタル アセットマネジメント

取締役 運用本部長）

（%）VIP等の実質GDP成長率（年平均）の実績と予測



（出所）IMFのデータを基にキャピタル アセットマネジメントが作成